

三番瀬・海辺のボランティア講座 「ヨシ刈り体験&のりすづくり」

2010年7月11日(日)

場所／市川市三番瀬塩浜案内所

<スケジュール>

- 10:00 開会
- 10:15 ヨシ刈り体験
- 12:00 昼食、休憩
- 13:00 のりすづくり
- 15:00 終了

主催／特定非営利活動法人 三番瀬環境市民センター

No. 8

さんばん せ かんけい し
三番瀬とヨシの関係を知ろう

2010.06.26

むかし、さんばん せ 三番瀬にあったヨシ原はら というかんきょう 環境について知ろう

①ヨシってどんな植物？

イネ科の植物で、世界中の亜寒帯から温帯にかけての水辺に生えます。湖や河川はもちろん、海と川の水が混ざる汽水域にも生えます。春に芽が出て、高さ2～3メートルにも生長します。秋には穂をつけて小さな種をつけますが、地下茎も伸びて増え大きな群落をつくります。水の中の汚れの原因（リン、チッ素）を吸収して生長し水をきれいにします。

②ハマグリもヨシ原を住みかにしていた？！

いきものたちにとってヨシ原は安全な住みかで、魚や貝、カニ、鳥などいろいろな種類の生き物が利用します。ずっと住んでいなくても、産卵の場だったり、子どもの頃を過ごしたりするものもいます。三番瀬からヨシ原がなくなって、アシハラガニ、クロベンケイガニ、アカテガニなどのカニが姿を消しました。また、ハマグリも幼生のころヨシ原にいるようです。東京湾からハマグリが減ったのは、ヨシ原がなくなったことと関係あります。

③人間も利用していた

ノリ漁を営む人にとっては、ヨシはノリをすく道具の海苔簾の材料でした。また屋根を葺く材料としても使われていましたから、昔はヨシ原をきちんと管理して、それを刈ることによって収入を得ることもできました。

ヨシは刈り取ると、次の年も立派なヨシが生えてきます。ところが刈り取らないと、翌年よいヨシができないだけでなく、せつかく吸収した汚れがまた水に流れ出してしまうこととなります。人がヨシを刈って利用することは、海の環境のためになっていたのです。ヨシ原は海辺に住む人々の暮らしととても深い関係にありました。だから、行徳に長く住んでいる人たちはヨシにたいへん愛着を持っていて、今、水辺にヨシ原がないことをとてもさみしく思っています。かつてのような豊かな三番瀬を再生するためには海辺のヨシ原の再生が必要です。そして、そのヨシ原を維持・管理する人間も必要です。毎年、みんなが楽しくヨシを刈るためには、刈ったヨシをゴミにしてしまうのではなく、何かに利用する工夫も必要だと考えています。



No. 9 ヨシを活用してみよう

2010.07.11 刈ったヨシで乾海苔を作る道具の海苔簾をつくってみましょう

刈ったヨシで、海苔簾を作りましょう。海苔簾は乾海苔を作る道具で、ノリ漁師の家では、初夏にまだ細いヨシを刈って編みました。1シーズンに1千~2千枚も必要で、子どもたちもお手伝いしたそうです。

①準備

よく乾燥させたヨシを約100本用意します。
海苔簾を編む台を使います。糸まきに巻いた糸6本を等間隔にたらししておきます



②ヨシを編む

最初の5本は固いヨシを使います

台の上にヨシを1本のせて、手前の糸巻きを向こう側へ、向こう側の糸を手前にと、編んでいきます。最初の5本はすべての糸を編みます。ヨシは1本ごとに根本と穂先を互い違いに置きます。



③ひたすら編む

6本目から一つ飛ばしで編みます。

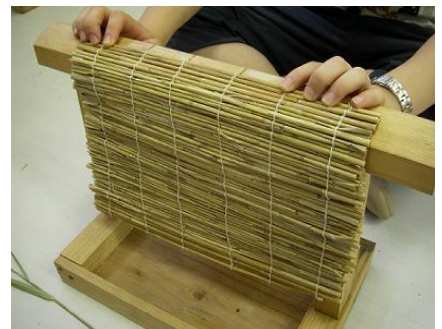
6本目からは、糸を一つ飛ばしで編んでいきます。適当な長さになるまで、この作業を繰り返します。一つ飛ばしを間違えないように編みましょう。



④仕上げ

最後の5本もすべて編みます。

最初と同じく固めのヨシを5本用意してすべて編みます。編み終わったらしっかり糸を結んで完成です。



三番瀬・海辺のボランティア講座 第5回報告書

ヨシ刈り体験&のりすづくり

1. 日時、場所

実施日／平成22年7月11日（日）

時間／10：00～15：00

場所／三番瀬東浜、三番瀬塩浜案内所

2. 参加者

海辺のボランティア 6名

NPO三番瀬 3名

3. スケジュール

時間	内容
10：00	集合 事前レクチャー
10：15	ヨシ刈り体験
12：00	昼食、休憩
13：00	のりすづくり
15：00	解散

4. 当日の様子



ヨシとススキ、カヤの見分け方を知っておきます。
必要なのはヨシです！



カマの使い方、草の刈り方をレクチャー



さあ、どんどん刈りましょう



のりす1枚編むのに約100本のヨシが必要です



加工しやすいように、先頭の葉2~3枚を残して、あとは取っておきます



ヨシをそろえて束ねます



必要な長さに切っておきます



日に干して乾燥させます



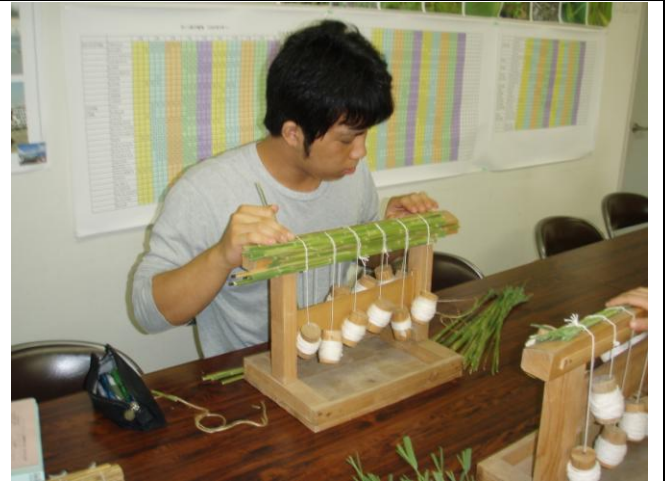
ヨシでのりをすく道具ののりすをつくります。ノリ漁師さんの家では家族で作っていました



編み台を使ってのりすを作ります。かつては、ノリ漁師さんの家には必ずあった道具です



たこ糸の縦糸に、刈ったヨシを織り込んでいきます



ひたすら編みます



あともう少し



両端の糸をしっかり結んで、ヨシを切りそろえてできあがりです

